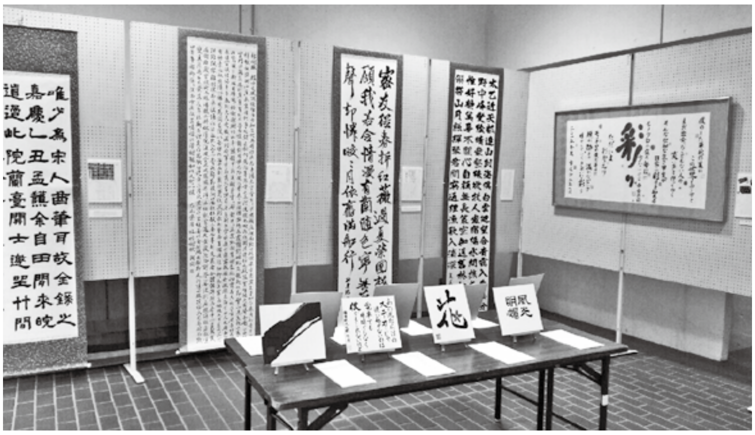
中央大学書道會

こんにちは、中央大学書道會です。
寒さが一段と身にしみるこのごろですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。
今回は、10月29日から11月1日にかけて開催された白門祭（多摩）で披露した書道パフォーマンスと、中大書展の出品作品を紹介します。

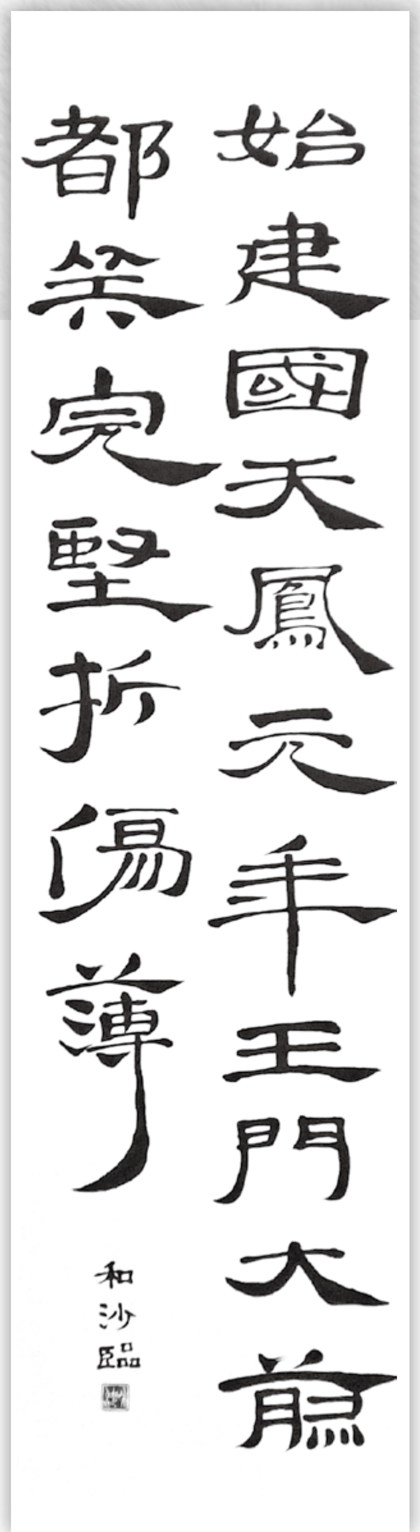
書道パフォーマンス

書道パフォーマンスは、全６チーム、総勢約50人が、30分間演技しました。
「感謝」をテーマにしたパフォーマンスでは、多くの観客に手拍子や拍手をいただき、書き手全員大喜び。のびのびと書くことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

中大書展

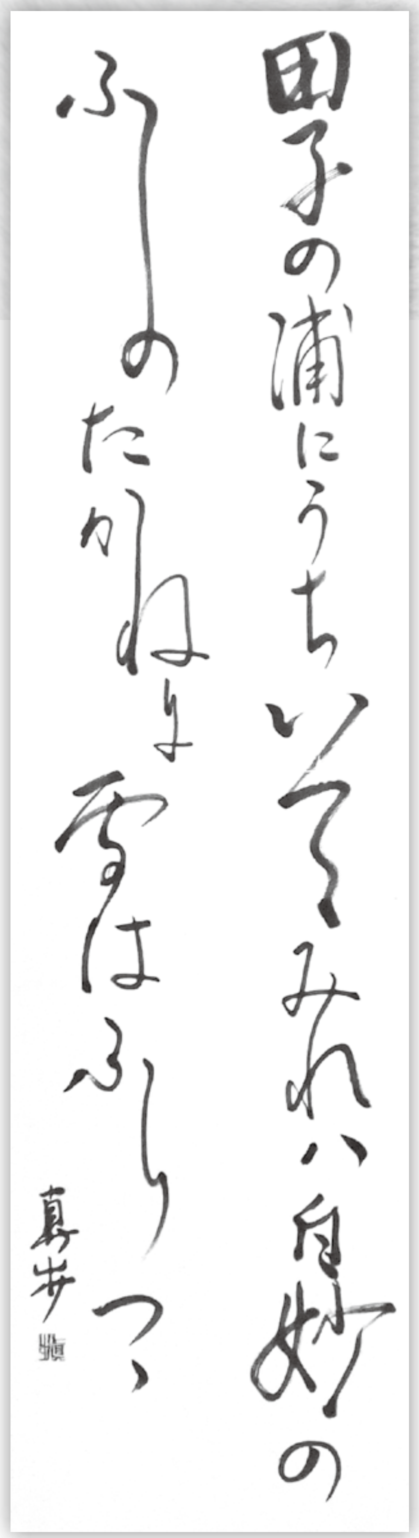


中大書展は図書館下ギャラリーで開催しました。會員が書き上げた約40点の作品には、一人ひとりの個性が表現されています。総来場者数は524人。本当に多くの方が足を運んでくださり、大盛況でした。その中から３点を右ページに掲載しました。



◎臨「木簡」
経済学部２年　髙田和沙
木簡には初めて挑戦しましたが、書いていて結構楽しかったです。右払いを丁寧に書くことを心掛けました。また、細いところと太いところを書き分けるのが難しかったです。

◎創 王維「終南山」「酬張少府」
法学部３年　前平夏美
唐の詩人王維の詩を造像記風に創作しました。画数の少ない字は旧字体にしたり、同じ部首や文字は工夫して変化をつけながら書きました。



◎創「田子の浦にうちいでてみれば白妙のふじのたかねに雪はふりつつ」
文学部１年　下条真歩
高校生の時に書いたものを今回改めて書いてみました。今後もいろいろな作品を書き、精進していきたいです。